



熊本大学 (熊本県)



豊かな自然と歴史のある熊本で、日本語や日本文化を学んでみませんか。日本文化に関するさまざまな分野の授業を日本人と一緒に受けて、日本への理解を深め、将来の研究に向けた基礎を作りましょう。

■大学紹介

① 大学の特色および概要

熊本大学は、夏目漱石やラフカディオ・ハーン(小泉八雲)も教えたことのある旧制第五高等学校を母体とする、伝統ある国立の総合大学です。現在、7学部・9大学院があり、約10,000人の学生及び約2,600人の教職員がいます。また、2014年には、文部科学省から、スーパーグローバル大学創成支援事業の対象校に選ばれました。

② 国際交流の実績

2016年10月3日現在、43か国1地域の209大学・機関と国際交流協定を結び、学生交流及び研究者交流を行っています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2016年：留学生数 527人
日研生<国費> 1人(インドネシア)

2015年：留学生数 532人
日研生<国費> 11人(カンボジア、タイ、ラオス、ベトナム、ブラジル、スペイン、フランス、トルコ、ポーランド、インドネシア)

2014年：留学生数 470人
日研生<国費> 8人(インドネシア、シンガポール、ラオス、ブラジル、オーストリア、ポーランド、タイ)

④ 地域の特徴

自然豊かな熊本には、2014年に世界ジオパークに認定された阿蘇山や、豊かな海に囲まれた美しい天草諸島があります。



■コースの概要

① 研修目的

各学生の目的に合わせ、以下の2つのコースを準備しています。
(a) 日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行うもの
(b) 日本語能力の向上のための研修を主とし、補助的な日本事情・日本文化に関する研修を行うもの

② コースの特色

学部の指導教員及び日本語担当教員が常に連携し、コースの選択から修了まで丁寧に指導します。

(a) 日本事情・日本文化研究コース

科目群	取得単位数	備考
日本語科目	6単位以上	1年間で合計24単位以上を取得すること。
研究科目	①～④から8単位以上	
①日本語研究科目		
②日本文化研究科目 ③日本文学研究科目 ④日本社会研究科目		
自由選択科目		日本語科目、研究科目の科目群から10単位以上

* 修了レポートを提出し、口頭試問に合格すること。

(b) 日本語能力向上コース

科目群	取得単位数	備考
日本語科目	12単位以上	1年間で合計24単位以上を取得すること。
研究科目	①～④から4単位以上	
①日本語研究科目		
②日本文化研究科目 ③日本文学研究科目 ④日本社会研究科目		
自由選択科目		日本語科目、研究科目の科目群から8単位以上

* 指導教員が認めた日本語による学習成果物を提出すること。

③ 受入定員

12名(大使館推薦 8名、大学推薦 4名)

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語・日本文化を専攻し、自国の大学で少なくとも2年間日本語を学習していること。本学のレベル4(日本語能力試験N3-N2レベル相当)以上が望ましい。

⑤ 達成目標

さまざまな体験を通じて、日本の社会や文化に対する知見を深め、特に「(a)日本事情・日本文化研究コース」では日本を対象とした研究を行う上で必要となるスキルを身につけ、一方、「(b)日本語能力向上コース」では、日本語能力を高め、社会で役立つ日本語・日本文化の知識を身につけることを目指します。

⑥ 研修期間

2017年10月1日～2018年9月30日
閉講式は2018年9月予定



⑦ 研修科目の概要

日本語科目、研究科目（日本語研究科目、日本文学研究科目、日本文化研究科目、日本社会研究科目）があります。

※研修科目は追加・変更になる場合があります、本コースガイドに記載のない科目についても修了要件として認められることもあります。

1) 日本語科目

- ・日本語能力向上コース 12単位、360時間以上
- ・日本事情・日本文化研究コース 6単位、180時間以上

<日本語科目>

「聞く・話す・読む・書く」の4技能について、日本語能力の向上を目指します。1~6レベルのクラスが技能別に開講されています。学期はじめのプレースメントテストの結果や学生の希望に基づいて、受講するクラスを決めます。

[主な科目]

中級会話

依頼する、誘う、断るなどコミュニケーションに必要な表現や言葉を、ロールプレイを通して学びます。

中上級読解

日本社会や文化について書かれた文章を正確に読み取るための読解のストラテジーを学びます。

上級レポート作成法

研究レポートのテーマ探しから作成・発表まで、実際に書きながら段階を踏んだ学習ができます。



日本語クラス

2) 研究科目、その他

- ・日本語能力向上コース 4単位 60時間以上
- ・日本事情・日本文化研究コース 8単位 120時間以上

<日本語研究科目>

日本語の文法・音声・音韻・語彙などを通時的・共時的に分析・考察します。

[主な科目]

日本語学概論I

大学で初めて出会う「日本語学」の講義として、現代日本語の全体像を理解できるよう、日本語学の基本的な事項について学びます。

国語学概説II

日本語文法の理論と文章表現を学びます。

※その他、日本語学概論II、日本語文章作成など

<日本文学研究科目>

日本文学に関する諸問題の考察を通じ、研究における様々な視点や方法を学びます。

[主な科目]

日本文学概論II

日本文学の流れをたどりながらその特質について概観するとともに、日本文学をいかに研究するか、その基本的な知識、姿勢、方法について学びます。

日本語日本文学入門

日本語あるいは日本文学を研究することの意義と方法について概観します。共通語と方言、書き言葉と話し言葉、古典文学と絵画、物語と和歌などをとりあげます。

日本語文章読解

日本の小説や随筆文、論説文をいくつか抜粋して取り上げ、それらを語彙や文体に注意しながら読みます。学んだことをもとに自分の考えを日本語で表現します。

※その他、日本文学概論Iなど



文学部民俗学概論Iを履修する日研生

<日本文化研究科目>

日本の歴史や文化をテーマとした基礎的な知識や専門的な研究のための視点を学びます。

[主な科目]

日本史概説II

日本の近世から近代にかけての政治と社会の動きを具体的に探り、日本近世・近代史の基礎を理解すると共に現代社会の基盤に対する理解を深めます。

民俗学概論I

日常生活の中の様々な習慣が、いつ、どのように作り出されたのか、近代国家成立によってどう変化したのか理解し、伝統的習慣をどう考えるべきかを学びます。

文化史概説I

明治維新から敗戦までの日本近代思想史を学ぶことによって、日本近代思想史の基礎知識を習得すると共に、歴史認識を再考する手がかりを学びます。

日本の文化と社会

日本の社会、文化、歴史などについて基礎的な知識を習得します。授業で扱うテーマや素材は、参加者同士で話し合っただけで随時決めます。

※その他、日本史概説、社会学特講など

<日本社会研究科目>

現代日本の諸問題を、政治、教育をはじめとする様々な視点から分析・考察します。

[主な科目]

地域社会学概論I

社会の基本構造である家族と地域社会の構造と機能について、また地域社会の「原型」について学びます。明治以降の近代化・産業化についても触れます。

地域社会学概論II

戦後大きく変動してきている日本の地域社会の諸問題の課題や解決策などについて、現実的対応に焦点をおいて具体的な事例を用いて考察します。

※その他：社会学概説、教育社会学、民法入門、教育学概論、教育史など

⑧ 年間行事

<秋学期 10月～3月>

- 9月末 開講式
- 10月 ウェルカムパーティ
熊本市内文化探訪
- 12月 文楽鑑賞(清和村)
留学生交流パーティ
冬期休暇
- 1月～2月 定期試験
- 2月 研修旅行
- 2月～3月 春期休暇

<春学期 4月～9月>

- 7月～8月 定期試験
- 8月 日本語による学習成果物提出/
修了レポート提出&口頭試問
水前寺公園で能鑑賞
- 9月 閉講式



<<熊本と夏目漱石>>

“山路を登りながら、
こう考えた。

智に働けば角が立つ。
情に棹させば流される。
意地を通せば窮屈だ。
兎角に人の世は住みにくい。

夏目漱石著「草枕」より

熊本大学夏目漱石銅像

夏目漱石の「草枕」は、熊本が舞台となっ
て生まれた作品です。熊本には漱石ゆかり
の地が多く存在し、その足跡をたどること
ができます。

⑨ 指導体制

学生は、文学部等に所属し、教員は学生の専門に合わせて
レポートの個別指導にあたります。

学生1名に対し所属する学部 of 指導教員1名と日本語担当教
員1名の2名体制で共同指導を行います。

○2015年度のレポート題目及び文学部の指導教員

レポート題目	指導教員 (専門分野)
短期留学生の友人関係構築に見る 異文化適応意欲とアイデンティティ変容機会	水元 豊文 (情報メディア倫理)
日本語とトルコ語における 依頼場面に対する断り表現	パウアー・トビアス (日本の宗教・哲学、 比較思想史) (1998-1999 日研生)
読書文化の比較研究 カンボジアと日本を例に	鈴木 寛之 (民俗学)
タイと日本の若者の親の 介護に関する意識の比較	平野 順也 (修辞学、 コミュニケーション学)
熊本の郷土食「馬刺し」に対する 日本人の若者のイメージ	坂元 昌樹 (日本近現代文学)
熊本市とサンパウロ市の水事情	三澤 純 (日本近現代史)
日本における難民制度 1975年から現在まで	松浦 雄介 (社会学)
アルベール・カミュの『ペスト』と 小野不由美の『屍鬼』の比較研究	竹内 裕 (聖書学)
くまモンの人気に関する研究	茂木 俊伸 (日本語学、 現代日本語文法)
平安時代と現在の日本文化 における安倍晴明という陰陽師のイメージ	山下 裕作 (日本民俗学)
現代の若者の飲酒文化	木下 尚子(考古学)

○プログラム実施委員

日本語・日本文化研修留学生の受け入れ、年間授業計画、成
績判定、修了認定のために、全学からの委員による委員会が
組織されています。

⑩ コースの修了要件、修了証書の発行

1年間に24単位以上を取得し、指導教員が認めた日本語によ
る学習成果物を提出、または修了レポートを提出し、かつ
口頭試問に合格した学生には修了証書を与えます。

■宿舎

キャンパスから東に1.5kmほどのところに、留学生のための
寮「熊本大学国際交流会館」があります。200人以上の留
学生や研究者が住んでいます。宿舎から大学までは自転車
で10分くらいです。

<部屋タイプ> 単身室

<設備> キッチン・シャワー・トイレ・クローゼット・
エアコン・ベッド・冷蔵庫・IHクッキングヒ
ーター・机・いす・電話機(受信専用)等

<寄宿料> 月額 17,000円(水道・光熱費を含まない)

*料金は、変更になる場合があります。

*その他、入居時に預託金、退去時に清掃費・
鍵交換費が必要です。

ふとんリース：約10,000円/年

インターネット：別契約



国際交流会館の外観と室内

■修了生へのフォローアップ

SNS等を活用して、修了者との交流を継続しています。

<修了後の進路例>

- ・大学院(母国・日本)進学
- ・日本企業勤務・日本語翻訳者
- ・大学教員

■問い合わせ先

熊本大学 国際教育課

住所 〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-40-1

電話 +81-96-342-2103/2133 (直通)

FAX +81-96-342-2130

E-mail gji-ryugaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学グローバル教育カレッジホームページ

<http://www.c3.kumamoto-u.ac.jp/>

熊本大学ホームページ

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

日研生ホームページ

<http://www.kumamoto->

[u.ac.jp/kokusaikouryuu/gaikokujinryuugakusei/kyouikup](http://www.kumamoto-u.ac.jp/kokusaikouryuu/gaikokujinryuugakusei/kyouikuprogram/japanese_studies_program)

[rogram/japanese_studies_program](http://www.kumamoto-u.ac.jp/kokusaikouryuu/gaikokujinryuugakusei/kyouikuprogram/japanese_studies_program)